

企画展

流山小学校

—地域とともに150年—



令和4年（2022）、流山小学校は創立150周年を迎えました。明治5年（1872）に学制が発布されると、今に続く学校教育の制度がスタートします。当時、県庁があった流山に教員を養成する印旛官員共立学舎とともに作られたのが流山学校、現在の流山小学校です。

本企画展では、学校創立から現在までの150年の歴史をふり振り返りながら、学校生活の移り変わりにスポットをあて、運動会、修学旅行といった学校行事のほか、授業、給食など日常の様子を紹介します。

この展示を通して、流山小学校のあゆみを知っていただくとともに、流山小学校が親しみを込めて「流小^{りゅうしょう}」と呼ばれ、常に地域とともに歩んできたことを感じていただく機会となれば幸いです。



創立150周年記念キャラクター
「ミリユウ」

流山市立博物館

はじめりは常与寺から

印旛県初代県令河瀬秀治は、学制の布達を受け、従来の私塾・寺子屋を閉鎖すること、流山村に模範小学校を開設し、伝習生を集めて教員養成にあたることを宣言しました。明治5年(1872)9月23日、流山小学校の前身である流山学校が常与寺に開校しました。教員を養成する印旛官立共立学舎(現・千葉大学教育学部)の付属機関として誕生したものです。現在、常与寺の境内には、千葉師範学校発祥の地と刻まれた碑が建てられています。



●振鈴

明治から昭和37年(1962)まで使われていた。現在のチャイムの役割を果たした。

●明治17年日記

2月20日、おびしゃ行事があり、児童の登校が22名と少なかったため、午前10時30分に授業を終了した。学校よりも地域の祭りが優先されたことがわかる。



流小 現在の地へ!

明治22年(1889)、流山町が成立すると、それまで寺院に間借りしていたいくつかの学校が統合され、流山尋常小学校が誕生します。町の有志の寄附金もあり、現在の地に校舎が新築され、正門も設置されました。現在、流山小学校の玄関に飾られている「流山鑿」の額が作られたのもこの時になります。以来、この額は130年以上にわたり、多くの児童を見守ってきました。

現在の公立学校は税金によって建設されていますが、流山尋常小学校は多くの町民からの寄附があって作られたことが当時の資料から明らかになりました。学校が地域にとって大切な存在であったことがうかがえます。

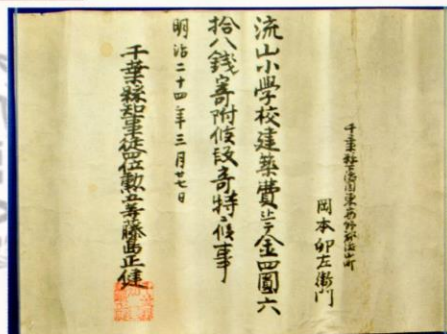


●額「流山鑿」(明治22年2月20日)

「鑿」の文字1文字で、「がっこう」と読んだといわれる。昭和63年(1988)に流山市指定有形文化財に指定された。

●流山小学校建築費寄附感謝状(明治24年3月27日)

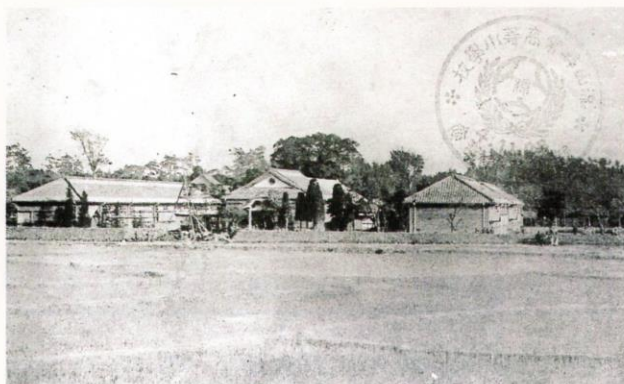
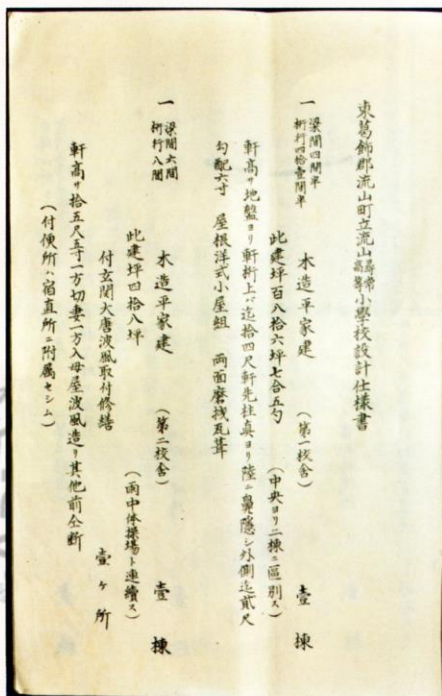
町民の寄附によって学校が建設されたことがわかる。



校章・瓦がつくられたころ

大正4年（1915）、流山小学校は常与寺に学校があった時期の玄関などを復元するかたちで、校舎を新築しました。当時の資料から建物の大きさ、材料の内訳などがわかります。この時、新築を記念し、現在の校章・校歌が作られました。額と同じ「巒」の文字を入れた瓦も作られました。

昭和に入って撮影された流山小学校の航空写真からは、当時の校舎の配置がわかります。昭和12年（1937）には、2階建校舎が建設されました。



●新築記念絵葉書（大正4年）

新築を記念して、地元の木ノ村書店（現・コノムラ）より発行された絵葉書。完成した校舎の様子がわかる。

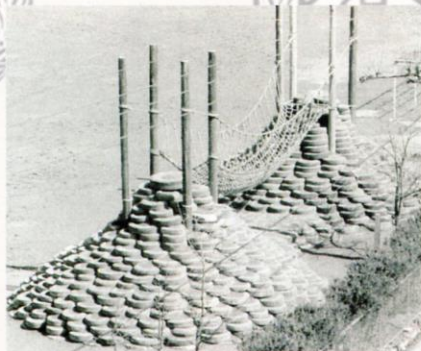
●校舎設計仕様書（大正3年11月）

流山町役場が作成した大正4年の校舎新築についての設計仕様書。玄関は取付修繕となっており、明治22年の玄関をそのまま活用したと推測される。

現在の流小へ

昭和42年（1967）、市制施行にともない、流山町立流山小学校は流山市立流山小学校となります。その後、急激な人口増加をうけて、昭和50年に鱈ヶ崎小学校、昭和54年に流山北小学校、昭和57年に南流山小学校が開校し、流山小学校から3校へ児童が分離していきました。

150年の歴史のなかで、流山小学校では、様々なものが変化していきました。昔はあったが現在は無いもの、昔はなかったが現在はあるもの。そのような資料を手掛かりに、現在の流小へつながっていく様子を見ていきます。



●がんばり山

昭和52年度卒業記念に制作された遊具。「NHK学校自慢」で紹介された。平成8年（1996）、老朽化のため撤去された。



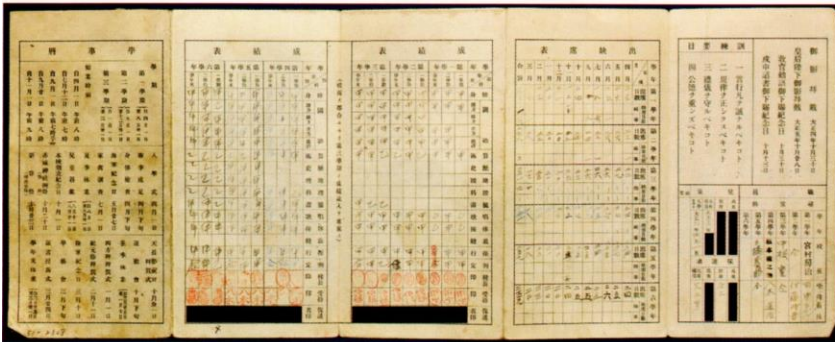
●現在の遊具

平成4年、120周年記念事業として寄附を募り制作された。

流小いま・むかし

今日の時間割は苦手な科目ばかりで憂鬱……でも今日の給食は好きなものが出るから楽しみ！ そんな何気なくも、ちょっとしたことが楽しい日々。わくわくドキドキ、期待に胸膨らませた運動会、修学旅行。ちょっと大人になった気がする修了式、卒業式……皆さんは、小学校の思い出といわれてどんな景色を思い浮かべますか。

皆さんの思い出の中にある学校の日常の風景や行事は、今どんな姿になっているのでしょうか。また、昔はどんな形で行われていたのでしょうか。



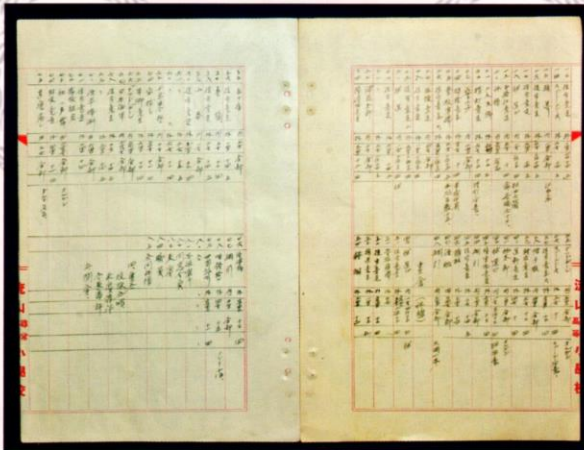
●通信簿（大正9～15年）

流山尋常小学校の通信簿。成績が「甲乙」でつけられている。



●卒業証書（昭和23年3月24日）

記念すべき第1号の卒業証書。昭和22年は流山町立流山小学校と名を改めた年であり、これを機に番号を1からふり直したのである。



●大正8年運動会のプログラム

障害物競争、二人三脚、綱引きなどといった馴染み深い競技のほか、スプーンレース、鱒つかみ、桑摘みなどもある。「お給仕競走」「日本海軍」「デッドボール」など、見慣れない競技も多い。



●現在の給食（令和4年6月2日）

この日の給食は韓国料理風で統一されている。牛乳の入れ物はピンから紙パックとなり、環境への配慮からストローは配られなくなった。

地域とのかかわり

学校日誌には、様々な記録が残されています。明治23年（1890）の第1回衆議院選挙の投票所として学校が使われていたこと、大正時代から地元の自盛堂印刷所が卒業証書を作っていたこと、清水屋が正月のお祝い菓子を納入していたこと等が記録されています。最近では、流鉄100周年号のヘッドマークや切り絵行灯の制作等、地域とともに歩んでいることがうかがえます。

●切り絵行灯と雛人形

「流山本町ひなめぐり」にあわせて、児童が制作した切り絵行灯の展示会を開催した。



●「流小号」と流山小学校

流鉄開通100周年にあわせて「流小号」のヘッドマークをつけた電車が運行された。（撮影・提供：千葉鉄道車両保存会 大原孝夫）

